

令和5年度新型コロナウイルス感染症対策研修会

5月26日(金) 18:00~19:30 ラ・カンパーニュホテル深川

- ・**目的** 令和5年5月8日から新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけの変更に伴い、北空知地域の社会福祉施設等における感染防止対策や感染者発生時における対応を今一度再確認することを目的とし、保健・医療・福祉・介護関係者等に対し、経験を踏まえた実践的な感染拡大防止のための情報提供を行い、感染者発生時における対応について研修の機会とする。
- ・**内容** (1)情報提供「今後の北空知の施設・事業所における新型コロナウイルス感染症対策等について」
情報提供者：北海道空知総合振興局保健環境部深川地域保健室
健康推進課健康支援係長 近藤 望 さん
(2)意見交換
- ・**参加者** 77名 北空知地域保健・医療・福祉・介護関係者（感染症対策担当者・施設内リーダー・実働職員等）

【情報提供から】

- ・情報提供者の近藤さんから、発生から3年を経過し、5月8日から感染法上の位置づけが変更されることに伴い、現状の知見や国の方針を再確認し、今後の対応を構築していくための情報提供をいただきました。
- ・内容は、1.北空知管内の発生状況、2.新型コロナウイルス感染症の特性と感染対策の基礎知識、3.5類移行後の感染対策の考え方(参考例)の3部構成でした。
- ・第7波～第8波における北空知管内の状況は、北空知管内においても複数のクラスターが同時発生し、大規模な施設や医療機関のクラスターでは、100人以上の感染者数となった施設もあり、死亡者数も多かったこと、GHなど配置医や嘱託がない施設において、病状悪化時の医療調整が困難だった。職員の感染率が高く、対策期間が長期化した施設では、施設運営継続に苦慮されていた。
- ・最も重要なことは標準予防策の徹底(手指衛生、PPEの選択、呼吸器衛生、環境整備など)
- ・まとめとして、・感染症にも対応しうる地域包括ケアシステムの再構築、・感染症も含めた医療連携・入退院調整の円滑化、・健康危機発生時の応援・受援体制強化(→平常時の体制整備が重要、→施設・医療機関を孤立させないサポート体制や日頃のネットワークづくり) などが必要。

【アンケート回答から】

- ・他施設の面会の考え方がとても参考になりました。
職員が感染した場合の仕事のやりくりの大変さ各施設、大変だという事もわかり少し安心しました
 - ・クラスターを経験している事業所としていない事業所の差がここに来て大きなものになってきていると感じました
 - ・个人防护服を着る習慣、時間がたつと忘れてしまうので定期的に行い意識づけが必要と思いました
 - ・認知症の方への対応、声のかけ方、根気強く関わっていくことの大切さ、スタッフ間での共通意識を持つことの大切さを改めて学ぶことができました
 - ・だんだん慣れが出てくるので時々こういうセミナーに参加し考えていけるような研修があれば参加したいと思います
 - ・コロナウイルス以外の感染症対応について知識を深めたい
 - ・5類に移行したばかりだが、今後コロナの状況で新たに見えてくる課題など共有してほしい
 - ・各施設の方と交流でき、とても意義のある時間を過ごすことができました。この様な場を企画して頂きありがとうございました
- などの回答が寄せられました。